

大会長挨拶



2024年10月27日に太田医療技術専門学校において第31回群馬県理学療法士学会を開催することになりました。本学会のテーマは「衣鉢相伝（いはつそうでん）～技能（ワザ）の伝承～」です。

「衣鉢相伝」は、「師匠から弟子に技を伝承する」といった意味があり、これを理学療法に例えると、「熟練したセラピストから次世代を担う若手セラピストに対し、問題の本質を正しく理解するための考える力（臨床推論学的思考）や問題解決する力（技能）を伝承する」ことと言えます。

考える力には、最新の知見や幅広い分野の知見を土台とし、使える知識として関連づけること、問題解決する力には、セラピストの感性を磨くことが重要と言われておりますが、どちらも形式的に表現することが難しいため、臨床現場で標準的に伝承することが課題であると言われております。

近年、理学療法士を取り巻く環境は大きく変化しました。卒前教育から卒後教育の仕組みが変わり、標準的な理学療法が行えるために一定の期間を有するようになった一方で、働き方改革や成果主義の導入により、入職後すぐに結果を求められるといった乖離が生じ、技能の高いセラピストをどのように育成していくかが課題となっております。

これらの諸課題に対し、基調講演では、技能をどのように伝承するかという大きなテーマを、肩関節疾患の理学療法分野や日本PNF協会の理事長として長年、人材育成にご尽力された遊佐隆先生に、教育講演では、腰痛の理学療法分野でご高名な成田崇矢先生に臨床推論学的思考過程を脊椎疾患の理学療法からわかりやすく紐解いていただきます。また、ランチオンセミナーでは、近年、注目されている予防領域から、日本栄養・嚥下理学療法学会副理事長である高崎健康福祉大学教授の吉田剛先生にリハ栄養の視点からフレイルに対する理学療法の考え方について、摂食嚥下領域では、群馬パース大学の酒井哲郎先生から干渉電流型低周波治療器を活用したリハビリテーションについてご講演いただきます。モーニングセミナーでは、3領域（脳卒中・循環器・スポーツ）の認定理学療法士から臨床推論を実践するにあたり、最低限知っておきたい知識をわかりやすく解説いただきます。

今回は、参加される皆様方にとって一日を通じて有意義な時間が過ごせるように、様々な領域を学べる企画になっております。働き方の多様性にも配慮し、新たな県学会のあり方についても一助となるよう、学会準備を進めてまいります。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

第31回群馬県理学療法士学会 大会長
日新病院 佐藤 豊